

---

いらっしゃいませ、死後探偵《しごたんてい》です

一之瀬 凜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

いらっしやいませ、死後探偵<sup>しごたんてい</sup>です

### 【Nコード】

N7362V

### 【作者名】

一之瀬 凜

### 【あらすじ】

兄を殺され、肉親もいない不幸な女子大生岡野美菜。

ごく上級に美人な、どんな謎でも解決できる死後探偵を営む素性不明の浅倉美鈴。

恋愛メインで入ります。

いらっしやいませ、死後探偵です。

ここは、東京にあるカフェテリア。

私は美菜<sup>みな</sup>は友人の晴香<sup>はるか</sup>が来るまである新聞を見つめている。

『2008年3月15日岡野千昭君<sup>おかのちあき</sup>（18）が変死しているのを夕闇川にて発見。死体から見て殺人と考えられている。なお、犯人はいまだ捕まっていない。』

岡野千昭は、私の血の繋がっていない兄だった。交通事故で私が8歳の時両親が死に、私は孤独になった。その後は『ホーム』という施設に預けられ、里親が見つかり11歳の時私は岡野家の養子になった。千昭も私と同じ境遇にいた。里親もわずか私が養子になってから3年がたったとき、火事で死んだ。遺産は養子である私と千昭に渡され二人暮らしになった。私と千昭は気が合い、すぐに仲良くなった。肉親のいない私にとって、彼はたった一人の家族だったのに。犯人はまだ捕まっていない。私はどんな手を使っても犯人を捕まえる。千昭のためにも。

カランコロン

「ごっめん美菜、遅れちゃった。」

「ううん、私も今来たところ。きにしないで。」

「ありがとー。あっそうだ、ねえねえ美菜、死後探偵って知ってる？」

「えっ、知らないけど……。でもそれってなんなの晴香<sup>はるか</sup>？」

「それはねえ、どんな謎でも解決することができんだって！！」

「へえ、どんな謎でもか。」

「美菜、なんか言った？」

「ううん。何でもない。てか、ごめん用事あったの忘れてた。先帰るね。」

「それじゃあ、また大学で。バイバイ美菜。」

「ん、バイバイ晴香。」

はあ、死後探偵か、本当になんでも謎が解決できるのだろうか。そんな探偵があるのなら、私の前に店が出てくればいいのに……あーでてこないかなあ。私考えれば不幸の連続だったし。

ビュウツツ

「えっ、なにこれ。」

出てきたのは洋風のかわいい小さな一軒家。看板には、

『welcome after death detective』  
と書かれている。

welcome after death detective.  
直訳すると、『いらっしゃいませ、死後探偵です。』になる。

「えっ、まさか本当に死後探偵……？」

嘘でしょ嘘でしょ。そんな幸運なことあるわけがない。

私は不幸を代表できるくらい、不幸に愛されている。

カランコロン

かわいいベルが鳴りいきなりドアが開いた。

中には美人な同じ年ぐらいの女性が一人。

彼女は店の前で止まっている私に極上級の笑顔で爆弾を放ってきた。

「いらっしやいませ、死後探偵ですつ。

お客様の兄さんが亡くなられた謎、解決いたしますよ。」

プロローグ 完



いらっしゃいませ、死後探偵です。(後書き)

はじめまして。一之瀬凜です。  
へたくそな文章ですいません。  
評価できたらお願いします。

こんにちは、死後探偵です。

「いらっしやいませ、死後探偵ですつ。

お客様のお兄さんが亡くなられた謎、解決いたしますよ。」

極上級の笑顔で、彼女は私にこう言った。

「はっ？」

「詳しいことは言わせてもらいますので、どうぞ。」

「はい……。」

「紅茶でいいかしら？ あっ、そのソファに腰かけて。」

「はあ、ありがとうございます。」

よく見ると全体的に統一感があり、お洒落な事務所だ。  
私いきよきよと事務所を見回していると、彼女がくちを開いた。

「あなたは岡野美菜さんですね。

私は、こうして死後探偵を営んでいる浅倉美鈴あさくらみれいといいます。

単刀直入に聞きますが美菜さん、あなたはお兄さん、  
いや義兄さんを3年前に亡くしましたよね。



確か、夕闇川で変死でしたよね？

事故なのか、自殺なのか、殺人なのか、すべてがわからないまま捜査が打ち切られましたよね。

あなたは、その真相を知りたくてここにいる、違いますか？」

「ええ、大体はそうですが・・・」

やばい、勝手に口が滑ってしまった。

こういう手の人は誘導尋問がうまいのだろう。

口が滑ってしまう。

最近はや若い人でも、お金の欲しさに人を詐欺ったりする。

ここは早めにごめんなさいをして、家に帰ろう。

夜も遅いし、何より明日は大学のレポート発表だ。

よし、きりだそう。

「あとう、私帰っていいですか？」

すると彼女はにこつと微笑みこう告げた。

「ええ。もちろん。

ありがとうございます。またのお越しをお待ちしております。  
それとこれ、私の名刺です。何かあったら連絡とか自由にどうぞ。」

「ありがとうございます、じゃあ失礼します。」

カランコロン

私は事務所を出た。

寒い。

11月だが雪が降りそうな寒さだ。

今日は月が出ておらずどこともなく暗い。

危ないし今日は早く家に帰ろう。

でも、あの浅倉美鈴さんなぜ千昭のことを知っていたのだろう、  
大学の子にも、誰にも言っていないはずなのに・・・

振り返って事務所を見てみた。

やっぱりかわいい外見だ。

ヨーロッパの一軒家をモデルにしたのだろう。  
中の家具もかわいかった。

美人な浅倉美鈴さんには、ぴったりだ。

でもどこか今日のどこことなく暗い雰囲気似ている。

なぜだろう。気になってしょうがない。

「えっ。」

決心をしよう1度振り返るとなぜか、あのかわいい外見の事務  
所は消えていた



**こんにちは、死後探偵です。(後書き)**

こんにちは、一之瀬凜です。

またまた下手でごめんなさい。。。

コメント、待ってます)。(

消えました、死後探偵です。

「えっ。」

振り返ると、あのかわいい事務所は闇に溶けるように消えていた。

……。今日はいったい何なのだろう。

死後探偵そのものが、なかったのだろうか。

悪い現実リアルな夢を見ていたのだろうか。

早く家に帰ろう。

・ ・ ・

ギイイー

「ただいま」

誰もいないが、形だけでも言わないときみしくて潰れそうになる。

はああ。

私の一人暮らしのアパートは、ため息で充満している。

大学の授業は、わかるけど面白くないし。

友達も少ない。

彼氏もない。

千昭が死んだ前の日は、二人でもさみしくなんかなかったのに。

もう遠い過去だ・・・

そうだ、レポート書かないといけない。

明日提出のレポートだ。

筆箱を出さないといけない・・・

カバンの中をこそごそあさった。

カサッ

指に触れるものがある。

取り出してみると、死後探偵の名刺だ。

名刺があるということは夢ではなく、やはり現実リアルのはずだ。

ふと疑問に思った。

あの消えた事務所の住所はいったいどうなっているのだろうか。

そもそも、あの事務所はいきなり私の前に出現した、ととってもおかしくはない。

そして事務所を出ると消えた。

住所は本当にどうなっているのだろう。

もちろん名刺には、連絡先、住所、さらにはホームページのアドレスまで書いてある。



一人でさみしさを感じていたのか、夜のテンションでおかしくなっていたのか

私は、死後探偵のホームページをパソコンで開いた。

消えました、死後探偵です。(後書き)

できたら、改善点などお願いします。

アクセスできませんでした、死後探偵です。

今私岡野美菜は、思いっきりパソコンの前でフリーズしている。

この状態ではや2時間。

だんだん飽きくる。

でも、やっぱり見てみたい。

つよし。押そう。

ポチッ

・ ・ ・ ・

・  
・  
・  
・

どうしたことなのだろう。

今度はパソコンがフリーズしてしまった。

どのキーを押してもウゴカナイ。

さらにはプスプスと煙を上げてきている。

イタッタイナニガオコッタノカ

バイトでせつせとためたお金で買ったパソコンなのに。

しかもその間の記憶がうつろにしか覚えていない。

確か

検索できませんとエラーになって、

私がキれて殴ったような・・・気もするのだが

いやな現実のことは忘れてさっさと寝たほうがいいだろう

とりあえずフリーズしたパソコンを放置し

私は風呂に入り寝た。

**アクセスできませんでした、死後探偵です。(後書き)**

短い& a m p, g d g d& a m p, 遅くなって  
ごめんなさい。

次回は1回置いといてキャラの説明をしたいと思います。

多分これから出るキャラもせつめいすると・・

**キャラ説明の、死後探偵です。(前書き)**

これは、本編ではなくキャラ説明です。  
激しいほどのネタバレです。

キャラ説明の、死後探偵です。

岡野美菜（19歳）

東京大学法学部 将来の夢は弁護士

岡野という名字は養子に入った時の名字であり、元の名字は長谷川である。

8歳の時に交通事故にて両親が他界。

11歳の時岡野家に養子として引き取られる。

その時に千昭と出会う。

16歳の時に千昭が不審死をし、なにを言っても聞かなかった警察に恨みを抱いている。

弁護士になろうとしたのもこの事故がきっかけである。

浅倉美鈴（23歳）

死後探偵を1人で営んでおり、頭が切れる。

過去に何かがあり、隠している。

美人で小柄。スタイルがいい。

野波晴香（19歳）

美菜の友人。

学科は文学部。



**キャラ説明の、死後探偵です。(後書き)**

書いてて何がどうなっているのか  
わかんなくなってきた一之瀬です。

次回は話進めます。

今日は頑張ろうと思います。

**夢の中で、死後探偵です。**

なぜか男の声がする。

「美菜、おい俺が誰だかわかるか？」

誰、てかこれ夢だよ。

現実だったら私が危ない。でも眠い寝よう。

「おいっいい加減、美菜てめえ起きろや、兄ちゃんだって・・・」

えっ、千昭？

どうして、なんで。

3年前に私を一人ぼっちにしたはずなのに。

放心状態の私をよそに千昭は嬉しそうにしゃべりだした。

「美菜、綺麗になったなあ。

ごめんな俺死んじゃって・・・

でも俺死んでから、成仏できなかったみたいで、

なんかねーずっとふわふわしてたんだよって美菜聞いてる？」

「千昭さ、死んだんだよね。

いなくなっただんだよね、今日会えたのもどうせ夢の中だから、

私が作り出している幻想だから、  
すぐに消えちゃうんだよね、  
なんで私今頃思い出しているんだろ・・・」

気づいたら私は泣いていた。

千昭が口を開く。

「美菜、今この状況は美菜の夢の中だけだな  
お前は幽霊が見えるようになる。  
多分何らかの力も手に入れるだろう。  
今日美菜は『死後探偵』に行っただろ？  
あの場所はな、詳しくは言えないんだけど・・・  
ごめん美菜時間が来た、じゃあな」

「えっ千昭どういう・・・」

ふっ

千昭が私の夢の中から消えた。

**夢の中で、死後探偵です。（後書き）**

少し変えました。

**起きました、死後探偵です。**

「おーい、君はいつまで寝てるのか。さっさと起きてくれよ。」

この声は私の声ではない。友達の声でもない。さらには男の声にも聞こえてきた。最近は今く嫌な夢を見るものだ。千昭の夢といいこれといい、全く。

精神科に行ったほうがいいのか。今日はもう大学に行かないでこう。精神科に行って診てもらおう・・・

「あれっ聞こえてないの、ここは大丈夫だと思ったんだけどなあ。  
あと君気づいてる？ここは至って現実だけど。」

にこっと彼が微笑んでいるのが確認できるけど残念なことに私は彼のように微笑む気力がない。

さらに彼はものすごく顔立ちが整っている。好みだ。

でもそんなことを言っても私は女だ。本当にどうして男が部屋に入ってくるのか、入念に鍵を寝る前にかけたはずなのに。

自身が喪失してきてしまった。部屋の隅で固まっておこう。

「ちよっと君、無視すんなよ。」

おっとついうっかり彼の存在を忘れてしまった。

さすがに無礼なので名前を聞いてみよう。うん、そうしよう。

「あの、あなたは誰なんですか・・・」

「ああ俺か、俺は本宮基。だったらそっちは？」

「私は岡野美菜ですけど・・・」

「そっか、美菜ちゃんか。よろしくな。」

そういつて本宮さんは私に右手を差し出してきた。  
握手だろうか？なら私も出しておこう。

そこでギュっという効果音が入るはずだった。  
彼の掌は半透明で私の掌をすうっと抜けていったのだ。

「「えーっっ」」

2人の声はもる。

だが思っていることはまるっきり違うことみたいだ。

「なっななんで握れないの？」

「あー俺実体化といていたのか。」

実体化、そもそも実体化がわからない私は何を言っているのか全く分らない。  
頭を？マークでいっぱいになっている私に彼が不思議そうに問いかけた。

「えつきみまさか幽霊じゃないの!？」

私はすごい勘違いをされてしまったみたいだ。

なんでこんなにも健康な私が幽霊に間違えられたのか・

そんなにも人相が生きてなかったのかな・・・

でも本当にどうして本宮さんがここにいて手が握れないのか

「えっいたって普通の人間なんですけど。てかそもそも実体化  
ってなんなんですか？

本宮さんの正体はいつたいなんなんですか？それにどうして  
ここに？」

私が一気にまくしたて上げる。

沈黙が生まれ、本宮さんは考えてるみたいだ。

時間がたち彼が口を開いた。

「美菜ちゃんは幽霊とかそういう系信じてる？」

「信じてないです・・・でも本宮さん幽霊なんですよね？」

「うーんそういう系なのは確かなんだけど、幽霊って言いきれ  
るわけではないかな。

話したらその辺のことすごく長くなるんだけどどうしようか・  
・」

「話してくださいお願いします。」

分かったよ、と彼が苦笑いをし話が始まった。



起きました、死後探偵です。(後書き)

文才・・・

**世界について、死後探偵です。(前書き)**

基のはなしとなっています。

**世界について、死後探偵です。**

この世界にはいろいろなものがあるのは理解してもらえるかな。

生をうけ自由に動けるもの、動けないもの。

人として生まれ生きていくもの。

健康に普通に生き、裏側の知らないもの。

裏側を知り、命を絶つもの・・・

これは俺の思う世界論だから、あくまで参考にしてほしい。

俺は肉体、魂がともに存在すると思ってる。

肉体だけが存在していたり、魂だけが存在していたり、なにも存在していなかったり・・・

そんな不都合があると、きっと人は生きているといえなくなるの  
だろうと思う。

たとえば肉体が滅び、魂だけが存在すると幽霊と呼ばれるものになる。

これは肉体を持っていないため物理的なことは全くできない。

実体化は物理的にものに触れたりとかそういうこと。

それに基本的にいまおれたちが存在している世界は、魂、肉体の2つを持っているものたちが最優先される。

もともと驚異的な力を持っていた人は肉体が滅んでしまってもその力を使うことはできる。

でもこれは本当にごくまれな話。

それでもってどうにか俺はごくまれな中にいるみたい。

肉体がどこにあるのか、わからないけれど滅んではない。  
でも、魂は消えてなくてこの世界にとどまっている。

正直本当になんで実体化できるのか分からないんだけどね。

でもとりあえず俺が実体化できる時があるということはまだ肉体は無事。

魂と一致していないからその状態の肉体がどうなっているのかほ

んと不思議。

この説明で分かってくれたかな。

難しいよねこの話。俺も考えたら頭痛くなるんだよね。

肉体ないけどww

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7362v/>

---

いらっしゃいませ、死後探偵《しごたんてい》です

2011年11月25日20時58分発行